

Q1 認知症やその家族を支えるために認知症カフェは必要だと考えておりますが、皆さんは認知症カフェの必要性についてどのように考えていますか。

理想を言えば、一般的な社会の中で、**どこに行っても認知症が受け入れられ**、コミュニケーションがとれるよう理解が広まるべきと思います。

高齢者の見守り活動に参加していますが、高齢者の認知症増加から、必然性を感じています。  
**高齢者の通いの場（集う場）に、認知症対応が必要**です。

交流カフェは必要だと思います。**認知症という言葉を使わずに皆が集える居場所**づくりは、独居の人や、子ども達が安全に暮らせる地域づくりになると思う。

条件付きで賛成。認知症の予防だけでなく、ケアにも注力されるように感じるので。周囲の高齢者（ここでは70歳以上）何人かに個別に少し尋ねたところ、次のような感想だった。

- ・ どのようなものか分からない？認知症の人が客？運営者？
- ・ 自分もそのような症状が出るのかと引きずられる気がする。
- ・ **「認知症カフェ」という名前があまりよくない。**
- ・ 老人会の集まりが延びてそのようになればいいのでは？

一番苦しんでいるのは認知症の人本人であり家族でしょう。**認知症の人やその家族がほっとできる場所を数多く作るのには反対ではありません。**しかし「認知症カフェ」と名乗るのをはばかり、**「認知症」を使わないネーミング**も多くあります。認知症の人を特別な人として関わることはあまりよくないという思いもあります。  
認知症の人が当たり前のように日常生活の中に登場して、老若男女が気づき合い、少し手助けし合い、なんだかんだ言っても一人にはならない地域や、社会にしていければと思います。そういった意味で、**認知症の人もそうでない人も集える場所**としてのカフェ（サロンだったり寄合い所だったりしますが）は必要だろうと思います。

認知症になる人が増えているのは事実。また周りにも少し気がかりな人がいる状況です。「認知症カフェ」の存在は、**家族や周りの人たちへも安心感**を与えられると思います。近くに「認知症カフェ」がある事で、気軽に利用できそう、雰囲気を感じることができ、行くことへの興味が増すなど利点が多いと思います。

認知症カフェは認知症対策全体の中で位置付けられるものですので、認知症カフェだけを取り上げるとバランスが悪いかもしれません。**当事者に対して養護者に対して、求められる認知症カフェが違う**と思われれます。認知症カフェが担っている部分は認知症施策全体のどこなのか、整理する必要があるかもしれません。

認知症になって、家に閉じこもると益々進行してしまうと思いますので、本人だけでなくサポートしている家族にとっても、話をしたり、情報支援する場が必要かと思います。

今後認知症患者数の増加傾向に伴って、**本人、家族にとって先の見えない療養生活の休息、相談、問題の共有の為、認知症カフェの必要性は今後さらに増える**と思います。

先日、くるみの会に若年性（58才）の夫をもつ妻が一人でお話にこられ、1時間ほど話し、他の**若年性カフェ（都内近隣）**へも行ってみようかとおっしゃってました。とても気が楽になったとおっしゃってました。やはり必ずオープンしている（人が多くとも少なくとも）ということキープすることが大切かと思います。

Q2 現在、地域の方々に対して、認知症カフェの認知度が低いと感じております。今後どのように周知していけばよいと考えますか。

「認知症カフェ」という**ネーミングに違和感**をもつ人が多いようです。実際に参加している方々に意見を伺ってみたら良いのではないのでしょうか。  
(どこで知ったか?なぜ利用したいと思ったのか?どのような場にしたいか?など)

新松戸では新松戸中央総合病院の「花モモカフェ」があります。  
自分たちの見守り活動の通いの場(集う場)へ、認知症対応が必要と思っている。  
(準備を始めている)  
**住民への認知症への正しい理解が必要と思う。**(関心は非常に高い)

各市民センターに**交流カフェを設置**することで、入りやすさがあがり広がると思う。

**地域では、「認知症カフェ」の前に「認知症」がよく理解されていないと思う。**マイナスのイメージが強過ぎる。年相応の認知機能の低下は誰にでもあるのに、真に皆の共通課題だという意識になるには時間がかかりそうだ。「認知症カフェ」の認識を深めるために一工夫必要かもしれない。

他方、**本来の目的を見失わないように、問題が生じる場所は、「症」(障害?)と見極めて、適切な対応ができる、特に高齢者に配慮のあるカフェだという原則を貫くことも大切**だと思う。

本人や家族に対しての周知ということであれば、主治医やケアマネージャーから知らせていくのが一番手取り早いのではないかと考えます。また、地域の方々のうち、お手伝い下さる方々などの住民への周知は様々な会合を通じて、民生委員や町会役員、学校経由で子供を通じてなど、様々あるかと思えます。

認知症カフェのことをどのように知ってほしいのか。誰に知ってほしいのか。そして知ってもらった人に何を期待するのか。こういったことを整理しておく、私たちも動きやすいかと思えます。

町会・自治会での「回覧」が有効ではないかと思えます。また町会・自治会長等へ「案内・招待状」などを出して、参加してもらうなども一つの方法かなとも思えます。(単に見学者にならないような事前の十分な説明が重要かとも思えます) まず、知ってもらう、関心を持ってもらう、他へ伝言してもらうなど。

認知されている(=知らされている)ことと利用者が多いことは違います。**利用者が増えれば、認知度は上がると思われ**ます。(「認知度が上がれば、利用者が増える」とは違うことに注意)。松戸市として利用者が少ないことを問題視しているのか、認知度が低いことを問題視しているのか、**認知症カフェの数が少ないことが問題視しているのか**、どれなのでしょう?

市民の方々が一番よく見ている松戸市の広報で情宣していくのが一番かと思えます。一回だけでなく、3ヶ月に一度位、定期的に掲載していくことが大事かと思えます。但し、ネーミングの**「認知症カフェ」は良くなく、他の名前が良いか**と思えます。(いきいき喫茶等)

各カフェの名前がバラバラで分かりづらいので、新オレンジプランに基づいての施策なので、**オレンジカフェみのり台**のように、オレンジカフェ(地名)のように名前を統一しては?オレンジカフェ=認知症カフェという認識につながるのではないのでしょうか。

広報や認知症ケアパスの中で(特集を組む等)マップ等にして、周知していけばよいのでは。まつどまつり、矢切こどもまつり

Q3 今後、認知症カフェをどのように推進したらよいと考えますか。

カフェの数を増やすこと、参加者を増やすことを目標にするのではなく、**カフェの目的、内容について検討したり**、評判の良いカフェを事例として広めるなど「**中身**」に目を向けた方が**良い**と思います。内容が充実すれば、自然とリピーターが増え、評判から利用者も増えると思います。

- ・地域（町会、自治会）での通いの場（集う場）の整備。
- ・高齢者の通いの場（集う場）に認知症対応が必然。
- ・地域（町会、自治会）住民の認知症への理解を得る（関心は高）
- ・通いの場（集う場）を運営するボランティアの確保。同時に認知症サポーターの確保。
- ・通常の高齢者の通いの場（集う場）、認知症カフェを追加、または併設。

交流カフェを各市民センターに設置することで、時間帯によって利用する人たちの年齢が分かれてくると思います。  
子どもから高齢者まで一応に使用できる**交流カフェ**。できれば夜8時くらいまで**毎日オープン**できたら良いのではないのでしょうか。  
市民センターの場所としては、調理室などでスペースを作ったらどうでしょうか。  
移動手段で**特養以外の施設にも声掛け**をして、提供のお願いはできないのでしょうか。

呼称はさておき「認知症カフェ」について、インターネット等で調べているうちに、こんなに素敵な取組みがたくさんあるのだと知った。例えば「**認知症カフェに行くよりも街の喫茶店に行くよ**」「どうせなら**スターバックスでコーヒーを飲みたいね**」という当事者の声から生まれた、**コーヒーチェーン店と自治体、住民、大学生との協働のカフェ**などは取り入れられるのでは、と思われた。

松戸市の既存の介護関係と限らず、様々な組織やグループ等の中に「**認知症カフェ**」を**自然に組み込みながら街全体を活性化するような動き**があってもいいのではないだろうか。

昔からあった隣近所のコミュニティは、今はメンバーの高齢化などに伴って縮小したり、無くなったりしています。しかし、やめたくてやめたわけではなく、維持していく体力、気力が落ちてきてしまい、やむを得ず縮小したり、やめたりしています。その部分を上手にお手伝いし、世代交代しながらコミュニティを継続していくような仕掛けがあるといいですね。あくまでも**主体は地域住民として推進をしていくべきだ**と思います。

まずは「認知症カフェ」の利用者から、現在の「**認知症カフェ**」の**状況**などに対する十分な意見集約と、**思いや希望等を把握**して、今後活かすことが重要だと思います。また、地域の福祉の制度ボランティアなどからの意見も聞くことも有効かと思います。

現在15箇所あるようですが、遠いとなかなか行かないと思いますので、もっと数を増やす必要があるかと思います。また無料でなく、お茶代100円～200円位をもらい、飲物、茶菓子をきちんと提供していけば良いかと思います。これにより参加者も遠慮がなくなり、参加しやすいと思います。

行政主導で接客する**ボランティアスタッフの専門性に関わる**能力の向上や、研修体制の確立。専門職の配置、**希望者の為の送迎バス等交通**手段の確立など、利用者が安心して行きやすい場所にしていく事。

どうしても**認知症とするとハードルが上がる**ようです。ボーダレス共生がいいかとも思います。ただ、専門職がいて話をきける準備もいるので人の手配がいます。

Q4 現在、「我が事」・「丸ごと」の地域づくりとして人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、共生社会の実現に向けて取り組んでいるところです。そこで、さまざまな方が集える多世代交流の場が必要と考えますが、認知症カフェと同じようにこども食堂も開催されてきています。また、特別養護老人ホームも場所や移動手段などの提供を検討していただいております。これらのことを踏まえてこれからのカフェについて、新たな提案などがあればお答えください。

「高齢者」「障害」「児童」と考えた時に、支援機関や集いの場などで、圧倒的に「高齢者」が充実しています。認知症カフェや地域のサロンなど、高齢者が集う場に障害者や児童もマッチングできれば、認知症カフェも、こども食堂も兼ねた「多世代交流の場」ができると思います。

ただし、六実の事件以降、このような交流に対して保護者の警戒心は大変強くなっていますので、元気応援クラブのように、市が指定した団体にモデル的にスタートした方が良いと考えます。

子供達と交流したいけど、どのようにアプローチすれば良いか分からないという声は聞くので、既存の団体に働きかければ手を挙げる団体は多いのではないのでしょうか。

松戸市には自立的な生活を送る高齢者が多いと思う。介護場面（老人施設やデイサービス等）ではよく取り入れられている年中行事（ex、節分、七夕など）などを地域の一般高齢住民の中で話題にすると、「子どものすることだ」と発言したりする。一方、子ども達を楽しませるための企画にさほど負担なく加われる流れができれば、持てる力を発揮する場合も意外とある。他者を面倒見ながら実は自身のケアに繋がるような相互交流ができるのもいいのではないかと思う。

「こども食堂」については、過去に地元でもその発想があったものの消えたという話を聞いたことがある。「認知症カフェ」に対する見方と類似の問題があるのかもしれない。一方、普段は孤食という高齢者も多い。食事は自炊、購入など様々だ。時たま極気の知れたほぼ同世代間でおすそ分けなどをしている。ただ、これまでの近所付き合いから、特に世代間の感覚の違いに気づいて賢明に距離を置く様子なども窺える。そうした部分をうまく繋いで「地域の食堂」が作れないかと思うこともある。

実際に、他の地域の「カフェ」や、場合によってはある時期お世話になる施設等を見学に行くことは大切だと思う。そこで移動手段等に関する支援（ex、バスや電車などの割引乗車券）なども求められると思う。

- ・運営スタッフの若返りに対してインセンティブを与える
- ・どこでもカフェ
- ・いつでもカフェ
- ・だれでもカフェ
- ・カフェ開催（場所提供含む）にインセンティブ

こんなことを考えてみました。

新たな提案となるかは、分かりませんが・・・地域内でのあらゆる世代、あらゆる人々（行政や企業等に携わる人も）また、行政・企業などの組織、市民団体等が「認知症」に対する認識を、キッチンと深めることが出来るような機会を増やすことが、まずは重要です。

「認知症とは」という何回か勉強しても「自分とはかけ離れた存在」のように感じる人も多く、「（正常な？）私（たち）」と「認知症の人」とをはっきり区別している人が多いのも現実です。個人的に「そうじゃないのよ。様々な（健康）状況の人がいるのよ。進み方もいろいろで」などと言っても、なかなか理解はされないようです。

「認知症を予防できる街 まつど」等を大いに期待しています。



**高齢者の方々が集い交流する場は絶対必要かと思えます。** その場の参加する方は認知症に限定せず、全ての方（元気な方も、介護を受けている方も）を対象にすべきかと考えます。高齢の方は家に閉じこもる傾向がありますので、是非外に出かける機会、場所を提供することが必要かと思えます。

とにかく人と話をすることが大事ですので、そこにはカフェが最適かと思えます。私が住んでいるマンション（総戸数508戸）では、**月2回高齢者を対象に「ふれあい喫茶」を開催**しています。会費100円で、コーヒー、紅茶等飲み放題です。**毎月20名くらい参加**し、午後のひと時（13:00～15:00）歓談しています。皆さんリフレッシュして家路についています。参加者制限はしておらず、高齢の方全てが対象としています。

質問になってしまいますが、様々が集える多世代交流の場？世代や分野を超えて『丸ごと』つながる事で、共生社会の実現に向けて取り組んでいるそうですが、松戸市の具体的施策を会議の時にでもご教示ください。

Q3で答えにプラスして、移動手段で特養以外の施設にも声かけをして提供のお願いはできないでしょうか。

可能な限り、小さい地域単位(町会・自治会又は複数の町会自治会)での通いの場(集う場)に追加、併設を試みる。

特養さんや病院等から場所と空いている時間の送迎の協力があったり、またそこにオレンジさんの協力があったりすると思います。

Q 3、Q 4

- ・認知症カフェ単独事業から複数の取り組みの一環とする
- ①月1回の企画ではなく、**常態での喫茶活動（特別養護老人ホームや老健、GH、通所介護、小規模多機能）**
- ②介護保険事業以外のカフェ活動（**喫茶店やスタバックス等のコーヒーショップでの展開、買い物等で利用する店舗の一角、商店街の一角で**）

- ・カフェ以外の取り組みでもいいのではないか。
- ①**家族会活動を行えば良い。**
- ②**単純に休憩場所を提供する。**
- ③**喫茶ランドリーの取り組み** <https://note.mu/masakimosaki/n/n7ff69f4a3067>

- ・レスパイトの**重要性を啓発する。**
- ①**介護は家族がするもの、認知症の家族をおいて遊びにいくなんてけしからん！**（気がひける）意識があるうちは「カフェ」なんておしゃれなもの（レスパイト）は利用しない。
- ②認知症カフェという利用者を制限しているかと思われる名称であったり、実際に認知症の方だけしか利用させていない現状だと広がりはないと思われます。（特別な人たちだから私たちには関係ない、と思われてしまいます。）

## 認知症カフェ アンケート結果

Q 1 : 認知症やその家族を支えるために認知症カフェは必要だと考えておりますが、皆さんは認知症カフェの必要性についてどのように考えていますか。

- 共生の集い
  - ・ 高齢者の集いは必要
  - ・ 認知症という言葉を使わないみんなの居場所
- 認知症の方への支援
  - ・ 家族や周囲の方がほっとできる
  - ・ 本人や家族が問題の共有できたり、休息、相談できる
- 認知症施策の中の認知症カフェ
  - ・ 認知症カフェが担っている部分はどこなのか整理が必要

Q 2 : 現在、地域の方々に対して、認知症カフェの認知度が低いと感じております。今後どのように周知していけばよいと考えますか。

- ネーミングに問題あり (例: オレンジカフェ)
- 各市民センターに交流カフェの開催
- 利用者が増えることで、認知度があがる

Q 3 : 今後、認知症カフェをどのように推進したらよいと考えますか。

- カフェの目的、内容について検討が必要
- 地域での集いの場の整備や住民への理解、ボランティア確保、現在の高齢者の集いの場に認知症カフェを追加
- まちの喫茶店・スタバでカフェ・コーヒー店と自治体・住民・学生の協働
- 主体は地域住民で推進
- 認知症カフェの実態調査・参加者の思いなど
- ボランティアの専門性の確保・送迎などの交通手段の検討



Q4：現在、「我が事」・「丸ごと」の地域づくりとして人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、共生社会の実現に向けて取り組んでいるところです。

そこで、さまざまな方が集える多世代交流の場が必要と考えますが、認知症カフェと同じようにこども食堂も開催されてきています。また、特別養護老人ホームも場所や移動手段などの提供を検討していただいております。

これらのことを踏まえてこれからのカフェについて、新たな提案などあればお答えください。

- 高齢者・障害者・児童もマッチングして「多世代交流の場」
- 元気応援クラブのように市指定の団体にモデル的にスタート
- 子どもたちを楽しませるための企画に高齢者が力を発揮し、高齢者のケアにもつながる相互交流
- 地域の食堂
- どこでも・いつでも・だれでもカフェ
- 認知症の理解の促進